

市鍼だより

令和7年3月 第1号



[目次]

ごあいさつ	那須賢士郎	2
健康づくり推進市民会議総会報告	那須賢士郎	3
敬老奉仕活動	中村みゆき	4
敬老奉仕活動に参加して	道上 大輔	5
技能功労者・青年優秀者技能者授賞式	那須賢士郎	6
20年目の目標	有馬 智志	8
青年優秀技能者賞に寄せて	中村みゆき	10
市鍼会の新年会に参加して	富永 雅幸	12
学術研修会のお知らせ	吉村 章治	13
施術所訪問記[第10回]	牧原 敏治	14

一般社団法人 鹿児島市鍼灸マッサージ師会

ごあいさつ

会 長 那須賢士郎

梅の開花の便りが聞かれる頃となりました。皆様におかれましてはお忙しくお過ごしのことと存じます。平素は当会の事業に対してご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度は多くの挑戦と喜びに満ちた一年を過ごすことができました。コロナ感染が緩和され、様々な行事が開催できたことを嬉しく思います。

6月の生涯学術研修会は、県民交流センターにて、県鍼灸マッサージ師会との共催により開催しました。今回の研修会では、第一線で活躍される先生を講師としてお迎えしました。講義では技術向上だけではなく患者様の心身に寄り添った施術の重要性について改めて学ぶことが出来ました。

健康まつりは、例年ですと10月に開催されるのですが、西原商会アリーナの改装のためマッサージボランティア活動は中止でした。

11月には市技能功労者・青年優秀技能受賞式が川商ホールで行われ、当会からは、技能功労者賞を有馬智志先生、青年優秀技能者賞を中村みゆき先生が受賞されました。その功績は師会全体の誇りとなり、先生のご尽力に心より敬意を表します。

敬老奉仕は、高齢者福祉センターの谷山、与次郎、吉野でのマッサージのボランティア活動を行いました。現在も施設での活動を行うのは難しい状況ですが、これからも地域社会への奉仕を大切にし、新たな形で貢献していきます。

「はり、きゅう施設利用券」は、本年度も多く市民の皆様に東洋医学の効果を実感していただき、健康への意識が高まるとともに、地域医療への信頼が高まったと感じております。また、3師会団結し連携を取り、現状維持を確保したいと思っています。陳情行動等も場合によっては取りたいと思います。

「はり、きゅう施設利用券」維持に関しては市議会議員で当会

の顧問である、いけやま美月さんに積極的な取り組みを通じて、尽力していただきました。

1月には、長らく中止を余儀なくされていた新年会を、再開することができました。新型コロナウイルスの影響により、数年間にわたり直接顔を合わせる機会が減少していましたが、久しぶりにこうして多くの会員が一堂に会する場を設けることができたことは、大変喜ばしいことでした。

来年度の4月の総会におきましては、多くの会員の皆様に参加いただくことを期待しております。

この一年を振り返り、皆様のご協力と支援に心から感謝申し上げます。これからも鍼灸マッサージ師会として、地域社会に貢献し、会員の皆様にとって有益な活動を提供してまいります。ご期待に応えるため、今後も一層努力を重ねてまいります。

最後に、今年一年、皆様お一人おひとりのご健康とご活躍を心より祈念致します。

健康づくり推進市民会議総会報告

総務部 那須賢士郎

令和6年9月6日(金)、鹿児島市役所本館2階講堂にて推進市民会議総会が開催されました。本会議では、健康増進計画に関連する以下の議題について話し合いが行われました。

会議の主な内容は令和5年度の推進状況についてでした。健康増進計画の進捗状況や課題についての共有が行われ、参加者からは現場の意見や改善案が出されました。令和6年度 of 取組計画案の発表具体的な年間業務計画(案)が示され、特に生活習慣病予防と高齢者支援を重点分野として取り組む方針が議論されました。市民の健康づくり推進の広報案、健康づくりに関する啓発活動や広報計画について、今後の展開案が提示されました。

今後の対応としては、会議で得た情報をもとに、各団体内での取組計画を考え実行したいと思います。広報案や具体的な事例を参考に、地域での啓発活動をさらに強化したいです。今回の会議では、多くの有益な意見交換が行われ、鹿児島市の健康づくりに向けた熱意を実感しました。今後も市の取組に積極的に協力し、より良い健康環境の構築に貢献してまいります。

敬老奉仕活動

事業部 中村みゆき

毎年敬老週間に合わせて行われている鹿児島地区の敬老奉仕活動が、令和6年9月15日(日)に行われました。今年度は高齢者福祉センター与次郎・谷山・吉野の3か所で実施させていただきました。高齢者福祉センターは、65歳以上の方ならどなたでも利用できる温泉やプール・トレーニング室などがある高齢者の生きがいと健康づくりを支援するための鹿児島市が運営する施設です。

午前10:00～12:00の2時間で与次郎41名・吉野48名・谷山21名で合計110名の方にマッサージを受けていただくことが出来ました。

各センター初めての試みとなりましたが、職員さんのご協力のもとたくさんの市民の方に施術をすることができ、大変好評のうちに無事終わることができました。来年も皆様のご協力の程、何卒よろしくお願いいたします。

参加して下さった以下14名の先生方、有難うございました。

参加者(順不同・敬称略)

吉野：吉村章治・吉村侑祐・田之上誠弥・那須賢士郎・富永雅幸
与次郎：川崎史絵・川畑裕人・東直樹・田中洋一郎・牧原敏治

谷山：中村みゆき・大勝孝雄・道上大輔・上ノ園高行



敬老奉仕活動に参加して

会 員 道上 大輔

9月15日(日)谷山高齢者福祉センターにて敬老奉仕活動に参加しました。

日曜日の10:00開始なので9:45分頃到着しましたが、すでにプールを利用されている方がおられたり、卓球をされている方、お風呂を利用される方など、ガラガラの想像とは裏腹に、元気な高齢者の多さに驚かされました。

施設のスタッフの方に挨拶をすませ、セッティング後初めての施設という事もあり少し見学をしていました。今回の奉仕活動の告知も、決して大々的という事もなく、A4程度の貼り出しでした。福祉センターの特性上、営利目的での活動は出来ないし、こんなものだろうなあとは思っていましたが、いざ奉仕活動が始まると、利用者様同士での告知、勧誘があった様で、お風呂で誘わ

れたと言う利用者様までおられ、終わって見たら利用者 21 人になっていました。元気な高齢者が多いのは、活気があるなあと感じます。奉仕内容は椅子に座って頂き、施術する形なので軽いものでしたが、それでも軽くなったとか、日頃のご不安等の相談などもあり、利用された方は皆笑顔になられていた様に感じます。

地域の高齢者福祉センターには、立ち入る機会も少ないので、良い経験が出来たと思います。自分の行った事で、他者が笑顔になってくれる事がとてもうれしく感じました。

今回の活動に参加させて頂き、改めて自分達の仕事が業なんだなと感じました。良い刺激がいただけた機会に感謝します。



技能功労者・青年優秀者技能者授賞式

会 長 那須賢士郎

令和 6 年 11 月 8 日(金)に川商ホールにて、技能功労者・青年優秀者技能者授賞式が行われ、当会の代表として参列しました。表彰式は、鹿児島市が誇る技能者の皆さんを称えるだけでなく、技能の価値を社会全体に広める重要な場となっています。令和 6 年度の技能功労者は 36 名、青年優秀技能者 12 名の計 48 名の皆様が受賞されました。当会からも技能功労者を有馬智志氏、青年優

秀技能者を中村みゆき氏の2名が受賞され大きな喜びと誇りを感じました。

式典では、受賞者一人ひとりの長年の努力と、その技能が地域社会に貢献してきた歩みが紹介されました。その中で印象的だったのは、技能とは単に「技術」ではなく、人々の暮らしを支える「思いやり」と「責任感」に裏打ちされているという点です。例えば、私たちの業界では、手技を通じて心身の癒しを提供しますが、その背景には、患者さんの生活の質を向上させたいという使命感が常にあります。

また、青年技能者の表彰は、技能が次世代へと受け継がれる



力強い流れを感じました。特に若手受賞者の方々が語る「技術を学ぶ喜び」や「未来への抱負」には、私自身も初心に立ち返る思いがしました。技能は経験を重ねて磨かれるものですが、同時に、新しい発想や熱意が加わることでさらに進化していくのだと改めて実感しました。

表彰式を通じて、技能の価値を再確認するとともに、今後も業界全体で技能の向上と若手育成に力を入れる必要性を痛感し

ました。「技能の灯火を絶やさず次代へつなぐ」。これこそが、私たち技能者の使命であり、鹿児島市の産業や地域の未来を支える原動力となるでしょう。

このような意義深い機会をいただいたことに感謝し、今後も技能の普及・向上の大切さを再確認しました。

20 年目の目標

会 員 有馬 智志

今年度の技能功労者表彰に推薦していただき、ありがとうございます。8 年前に青年優秀技能者表彰を受けたばかりで、まだ早いだろうとも思いましたが、せっかく声をかけていただいたのでありがたくお受けしました。ちなみにこの表彰を受けるには経験年数 20 年以上となっておりますが、2024 年 6 月で開院 20 年でした。

私は東坂元であさひ鍼灸院を開院しています。2002 年に鹿児島鍼灸専門学校を卒業し、その後整形外科で 2 年間マッサージをしていました。整形外科勤務中は全国病院理学療法協会に所属し、運動療法機能訓練技能講習会を修了しています。名称的に理学療法士の会かと思われるかもしれませんが、病院に勤務しているあはき師および柔整師で組織されている会です。整形外科勤務 2 年目から鍼灸マッサージ師会に入会し、2004 年にあさひ鍼灸院を開院。県の理事を 4 年経験し、その後、鹿児島市保険鍼灸師会の理事を”やらされて” 15 年目にはいっています。

開業した当初、入り口のドアには”営業中”と掲示していました。整骨院などは”診療中”がよく掛かっていますよね。2 年間整形外科に勤務しリハビリ的な視点を学びましたが、東洋的にも、西洋的にも”診察”し”治療”する自信はありませんでした。そこで”営業中”。つまり”なりわいを営んでいる”ただそれだけ

の場所です。今では訪問にでるときだけ”往診中”を掲示し、在院のときはなにも掲示していませんが、いまでも気持ち的には”営業中”のまま進歩はありません。

ちなみに”なりわいを営んでいる”場所ですが、稼げてはいません。現在までやってこられたのは妻のおかげです。「この人と結婚したら、仕事をずっと続けたいといけない！」と覚悟したそうですから、本当に感謝しかありません。

今回 20 年間を振り返ると、稼げていない理由に思い当たりました。それは”飽き”。「商い」は「飽きないだ」といいますが、まさにそれ。施術や患者対応をふくめすべてにおいてほんの少しずつ飽きがきた。情熱が薄れたといってもいいでしょう。このことに気づいたちょうどその頃、正月休みに昨年 3 月に放送のあった NHK の「正直不動産 2」というドラマを子供とみていて、次のようなシーンがありました。新人営業マンがトップ営業マンに教えを請う



シーンです。トップ営業マンはシンクに水をはり、そこに顔をつけるよう新人に言います。素直に水に顔をつけ、苦しくなり顔を上げようとする、それを邪魔するように後頭部をおさえるトップ営業マン。いよいよもう駄目かも！というタイミングで手を離します。怒りの形相で何をするのかと問いたです新人。そこでトップ営業マンがひとこと。「苦しくて死にそうで息をしたくてたまらない。それぐらいの気持ちがあれば自然と売れる」そのようなシーンでした。このシーンを見て、黒字にするのに必死だった開院当初を思い出しました。私は結婚を後回しにして開業しました。そのときの条件は年内に黒字にすること。テナントを借

りているのでその家賃や光熱費などはもちろん、個人的な年金や保険も払わなければなりません。それらを支払って、とりあえず黒字にしなければいけません。6月開院なので期限は半年。病院をやめるときに告知はしなかったのでお客さんのあてはありません。まさにゼロからのスタート。手作りのチラシをまいて、ホームページを自作し、説明資料をつくり、施術し直接お金をいただく。まだ痛みが残ると言われながらも、料金をいただくときの申し訳なさ。一生懸命施術しても2回目がないこともあたりまえ。正解もわからず不正解の理由もわからない毎日。本当に必死でした。今も頑張っているけれど必死ではないな。そう気づきました。

現在48歳。あと20年で68歳。先輩方を見ていると、きっと変わらず仕事をしているでしょう。次の20年は鍼灸でしっかり稼いでいますといえるように。

“飽きずに必死に商いを”

当たり前のことかもしれませんが、もう一度初心に返ってしっかりとなりわいを営みたいと思います。

青年優秀技能者賞に寄せて

会 員 中村みゆき

令和6年11月8日、川商ホール（鹿児島市民文化ホール）にて鹿児島市青年優秀技能者賞を受賞し、下鶴市長より立派な表彰状と記念盾をいただきました。この賞を受けるにあたり、本会よりご推薦いただき心から感謝申し上げます。

平成19年に鹿児島鍼灸専門学校を卒業し、鍼灸・マッサージを仕事としていつの間にか17年、本会に入会し10年以上という歳月が過ぎていることに自分自身驚いております。その間に結婚し、4人の子供に恵まれ、子育てと仕事で1日・1年があつとい

う間に過ぎていきました。ただ、がむしゃらに1日をこなす毎日が続いているような生活です。そんな私にこのような立派な賞をというお話をいただき、正直、いつの間にか過ぎていった17年間に自問自答し、決して優秀ではないけれど…と畏れ多い気持ちになりました。しかし、この仕事を続けてきて、これまで頑張ってきて本当に良かったなと少し救われたような、ご褒美をいただけたような素直に嬉しい気持ちです。



表彰式で下鶴市長の祝辞に「仕事に対する深い愛着と研鑽、感謝の心」というお言葉があり、とても共感いたしました。私がどんなに多忙な日々を送っていても、支えてくれる家族の存在や長年お世話になった大勝先生には言葉では表せないほど感謝しています。そのおかげで、私は心からこの仕事に向き合い、愛着を持ち続けることができたのだと思います。

日々繰り返される仕事ではありますが、自己有用感が得られるだけではなく、毎日の積み重ねが、人との出会いやつながりが、人生を豊かにしてくれる何よりも大切に意味深いことだと感じています。まだまだ諸先輩方に比べれば若輩者ではございますが、これからもこの受賞を励みにさらなる研鑽と努力を重ね、自分らしく前進していきたいと思えます。最後に、再度心より感謝を申し上げます。

鹿児島市鍼灸マッサージ師会の新年会に参加して

会 員 富永 雅幸

先日、鹿児島市鍼灸マッサージ師会の新年会に初めて参加させていただきました。この会が開催されるのはコロナ禍を経て実に5年ぶりとのことで、多くの先生方と直接お会いし、交流を深められる貴重な機会となりました。

日頃より、先生方が鍼灸に対して注がれる情熱を感じておりましたが、この新年会を通じてさらにその深い愛情に触れることができました。会場では鍼灸の未来について熱く語り合う姿や、長年の経験を共有し合う姿が印象的でした。その中で、鍼灸という伝統ある技術を守り、進化させていこうとする強い思いが伝わり、私自身の励みともなりました。



また、終始賑やかな雰囲気の中で、先生方の人柄やお互いを尊重し合う関係性にも触れることができ、改めてこの業界の魅力を感じました。今回の新年会をきっかけに、私もより一層、鍼灸と向き合いながら技術を高めていきたいと思います。

このような素晴らしい会に参加できたことに心から感謝いたします。

令和7年度 鹿児島市鍼灸マッサージ師会 学術研修会のお知らせ

学術部 吉村章治

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は、本会の事業に対し格別なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、例年通り県市共催により学術研修会を、下記の日程にて開催予定です。会員の皆様には、ご多忙中とは存じますが、ぜひご出席賜りますようお願い申し上げます。

日時 令和7年6月22日（日）10：00 から 15：00

場所 鹿児島県民交流センター 鹿児島市山下町14-50

電話 [099-221-6600](tel:099-221-6600)

講師 康祐堂あけぼの漢方鍼灸院

富田 祥史（とみた よしふみ）先生

演題 「YNSA（山本式新頭鍼療法の実践（仮）」

午前 理論 午後 実技

【YNSA（山本式新頭鍼, Yamamoto New Scalp Acupuncture）】

1970年代に医師である山本郁夫先生によって考案されました。この治療法は、頭部の特定の部位に鍼を刺すことで身体全体の調整を行い、特に神経系の疾患や痛みの治療に効果があるとされています。従来の中国鍼灸と異なり、シンプルな診断方法と施術で短時間に効果を実感できることが特徴です。

以下に、YNSAの概要と特徴について詳しく説明します。

YNSA（山本式新頭鍼）の特徴

1. 部位（ゾーン）に基づいた治療：

- 。 頭部の特定のポイントやゾーンに鍼を刺すことで、全身の機能を調整します。

- 治療点と呼ばれる主要なポイントを用いて治療を行います。
 - 各ポイントが身体の異なる部位や機能に対応しており、痛みや運動機能障害を改善することを目指します。
2. 簡易的でシンプルな診断法：
- 手や首の動きを使った触診（診断）を行い、体の不調がどのゾーンに関連しているかを素早く見つけます。
 - 診断に高度な機器を必要としないため、臨床現場で即座に適用可能です。
3. 即効性：
- 多くの場合、施術中に効果を感じられることがあり、特に痛みの緩和や可動域の改善が早いと言われています。
4. 幅広い適応症：
- 痛み（慢性・急性の腰痛、肩こり、膝痛など）
 - 神経疾患（脳卒中後遺症、パーキンソン病など）
 - その他、内科的な不調（頭痛、不眠、胃腸の問題など）にも応用されます。

「施術所訪問記」（第 10 回）

はり・きゅう・マッサージ 寿仙

取材：牧原敏治

取材日：2025 年（令和 7 年）1 月 25 日（土）

住所：〒891-1105 鹿児島市 郡山町 2373-2

TEL. 099-298-2875

はり・きゅう・マッサージ 寿仙（じゅせん）

寶尺（ほうしゃく）陽子 先生

寿仙は、郡山小学校からほど近い、独特な三角屋根の家々が建っている【県営郡山団地】のすぐ奥隣りに有ります。周りは緑の木々に囲まれて、とても閑静な所です。ここの家は、かつて学校の教員をされていたお祖父様の居宅だった所で、治療院名の【寿仙】は、ここのお祖母様が墨絵をされていた時に名乗られていた雅号（別名）だったそうです。そして、寿仙とは健康で長生きと



いう意味もあり、皆様の心身ともに健康で長生き出来るよう自然治癒力の向上にお役立て出来るようにと命名されました。

先生は、1980年（昭和55年）9月に、お父様が会社員をされていたご家庭に、3姉妹の次女として鹿児島に誕生されました。お父様は長い年月、骨髄腫を患いながら会社勤めをされていましたが、先生が20歳の時にお亡くなりになりました。

高校卒業後、福岡にある美顔・痩身・脱毛を行うエステ会社に入社されました。講習や研修を経て実務に移行され、約3年間勤務されました。

その後、東京に本社があり全国に店舗を持つリラクゼーションの会社に入社されました。東京での講習や研修を経て、鹿児島の中央駅アミュプラザの店舗で勤務されながら系列店舗のある郡山の“ららら”（スパランド裸・楽・良）にも手伝いに行ったりしていました。平成20年にはアロマコーディネーターの資格も取得されたそうです。

その後、地元鹿児島で経営されている、美容やリラクゼーションに関する施術やサービスを提供するサロンで勤務されました。

この会社は、主に美と健康そして癒やしに力を入れている会社でした。ここの社長は、鹿児島鍼灸専門学校（以下“鹿鍼”と表記する）の卒業生であり、この社長や仕事仲間の人達の勧めもあり、また自分でも、これまでのリラクゼーションの仕事においては解剖生理の基礎と東洋医学については軽く学んではいましたが、もっと詳しく東洋医学を学んでみたいという思いがあったので鹿鍼に入学することになりました。

鹿鍼に入学後も、学校の授業を受けながら、引き続きリラクゼーションの仕事も続けておられたので、学校の勉学にはとても苦労されたそうです。鹿鍼の学生時代で特に思い出深かったのは、中国の研修旅行に行った時の事で、上海の大学や病院で人体解剖を見学したり、鍼灸処置室で中国人の先生達の施術を見学したり、そして漢方の薬の処方を見学などをしたりした時の事がとても印象深かったそうです。

先生は、2012年（平成24年）3月に鹿鍼を卒業されました。その後、大勝鍼灸整骨院プライマリーに勤務されながら、個人でも2016年（平成28年）6月に現在の郡山の家で開業され、数年間は大勝院の勤務と重複がありましたが、その後、完全に独立されて、現在1人で治療活動을続けておられます。コロナ禍の時に、施設の訪問が出来なくなり、経済的に生活の不安が大きくなって来たことも、完全に独立する大きな要因になったそうです。

来院される患者さんの多くは、ご高齢の方が多く、肩、膝、腰の疼痛を訴えられる方がほとんどだそうです。年々来院される患者さんの年齢が高齢化し、物価も高騰して来ているので、いかに来院者数を増やして行くかが現在の課題だそうです。

開業してから治療に来られた患者さんの中で、一番印象に残っている方は、自分は“パーキンソン病”だと訴えて来られた方だそうです。当初は“肩こり、頭痛”で来院されたのですが、落ち着きがなく、病院の検査結果では異常なしでパーキンソン症候群にも該当しなかったという事でしたが、“いいや、私はパーキン

ソン病だ”と言い張られたそうです。先生としては、生活習慣の改善を促されたそうですが、考え方が独特で、悪い方に悪い方に行動される方で、結局最後まで聞き入れてもらえなかったそうです。最近では大人の発達障害がよく聞かれますが、程々がよく解らなかつたり集中力がない、柔軟性に欠けるなどの症状を持った患者さんにどう接して行くかも今の私の課題ですとおっしゃっていました。



【診療時間】

◎受付は、周りに気兼ねなく過ごしてもらえるように
[完全予約制]

月～土　：　午前9時～午後6時

〈休診〉日曜日。他祝日などは相談に応じて治療を行う。

【治療形態】

(初診の方) 問診→脈診→仰臥位施術→腹臥位施術

(再診の方) 不調部位を中心に施術

【治療時間】

30分～40分を目安とする。

【訪問治療】

医療保険の患者さんで、歩行困難な方は要望に応じて施設や
居宅に出向いて治療を行う。

先生は、美容やリラクゼーションの業界で長年勤務をされ、その後東洋医学を学び国家資格を得て、これまで多くの患者さん達の治療に努めて来られました。現在は、経絡治療や中医学などの学問を深め、周りの先生方にも教えを頂きながら、技量を深めて治療に努めておられます。今後も興味を持った事はどんどん取り入れて治療に活かして行きたいそうです。女性が1人で開業するに当たっては不安が多くあったそうですが、師会の先輩方の色々なご助力を頂いて現在何とか維持出来ており、この場をお借りして感謝を申し上げたいとおっしゃっていました。

治療の仕事以外に、庭が広いため、今までした事の無かった庭木の剪定作業などもやられており、時には来院されている患者さん達のお手伝いも頂いて頑張っておられるようです。また DIY で必要な物が自分でも作れるようになりたいと、道具も少しずつそろえておられるとの事でした。



この取材の終盤に偶然にも、この治療院を開業して1番目に来て頂いたご婦人が来院され、またすぐその後にやはり常連のご近所のご婦人と猫さんまでも来院されて、一緒に写真に写って頂きました。先生がいかにか皆さんに信頼をして頂いているかが垣間見える瞬間でした。



発行所 (一社) 鹿児島市鍼灸マッサージ師会 情宣部
(公社) 鹿児島県鍼灸マッサージ師会館内
〒 890-0015 鹿児島市草牟田町8-4